

o-アミノフェノールに係る中期発がん性試験の実施について

「中期発がん性試験の実施事業（n-ヘプタン酸、o-アミノフェノール）」の応札者からのヒアリングの結果、o-アミノフェノールに係る試験の実施について、以下の点が課題として挙げられた。

- ✓ 事前に分析方法等を検討した結果、o-アミノフェノールは分解性が早く非常に不安定であることが判明。GLP 試験を実施する上で必要となる被験物質の安定性が確保できないおそれがある。
- ✓ 調整後、室温、冷蔵条件下で測定したところ、いずれも2時間～6時間で分解が要因と考えられるピーク面積値の変動が認められた。
- ✓ 化学物質分析法開発調査報告書によれば、中性～塩基性領域において分解が認められ、また光により変色（分解）が起こるとされている。
- ✓ 実際に動物に投与する際には、投与液を少なくとも用時調製とする必要があり、かつ取り扱いにも細心の注意が必要となるため、通常の試験よりも工数が格段に増えると判断される。

rf.) Toxicity of o-aminophenol, EPA (2016)

It readily undergoes an oxidation/cyclization reaction in the presence of air (oxygen) and light to yield 2-aminophenoxazin-3-one (Mitchell et al., 2003) 【INTRODUCTIONの記載】